



# 身近な自然に触れて遊んで！ 親子で一緒に楽しもう！



全国国公立幼稚園・こども園長会



# もくじ

## はじめに

子どもの育ちを家庭と共に支える ～身近な自然との関わりを窓口にして～

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美	1
<b>I 事業の概要</b>	2
1 事業の趣旨	2
2 事業の経過	2
<b>II 調査結果及び1年次全国キャンペーン・研修会の成果</b>	3
1 「身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査」から分かったこと	3
2 1年次全国キャンペーン・研修会の成果と課題	3
<b>III 国公幼からの提言</b>	4
提言 1 遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しよう	4
提言 2 幼児期に、身近な自然に関わり遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で自然との触れ合いを楽しめるようにしよう	4
提言 3 地域の環境を活用し、親子で身近な自然との触れ合いを積極的に楽しめるように発信しよう	4
<b>IV 提言の実践</b>	5
1 実践について	5
2 提言の実践から明らかになったこと	6
<b>V 2年次の全国キャンペーン・研修会</b>	7
1 各ブロックの報告	7
① 東北 北海道ブロック	7
② 関東 甲信越ブロック	8
③ 東海 北陸ブロック	8
④ 近畿ブロック	9
⑤ 中国ブロック	9
⑥ 四国ブロック	10
⑦ 九州ブロック	10
2 全国キャンペーン・研修会の成果	11
<b>VI まとめ</b>	
身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための幼稚園・こども園の役割	
特別事業委員会 委員長 渡部 佳代子	12
<b>VII 寄稿文</b>	
感性と探求心を育てる自然体験～親子と自然をつなぐ園の役割～	
國學院大學 子ども支援学科 教授 鈴木 みゆき	13

## はじめに



# 子どもの育ちを家庭と共に支える ～身近な自然との関わりを窓口にして～

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美

全国国公立幼稚園・こども園長会では平成11年度から「特別事業」に取り組み始め、幼児を取り巻く喫緊の今日的課題に対応するための調査研究を積み重ねてまいりました。

特別事業の調査研究では、1年次に会員園にご協力いただき「実態調査（アンケート）」を実施し、2年次には1年次の調査結果や分析・考察を生かしてまとめた提言に基づく実践例の収集を行っています。また、研究内容を踏まえた親子参加型の「全国キャンペーン・研修会」を、例年、全国の七つのブロックごとに開催しており、それらの成果を、1年次には「リーフレット」に、2年次には「報告書」にまとめ、会員園や保護者の皆様、関係各所にお届けしています。

幼稚園教育要領の中には「幼稚園と家庭が一体となって幼児と関わる取組を進め」という一文が、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には「子どもの育ちを家庭と連携して支援していく」という一文があります。幼児を取り巻く今日的課題を保護者の皆様と共有しながら取り組んでいる本調査研究は、全国の国公立の園が要領に示されている内容に即した教育を行っていることの一端を示している、と言えます。

令和元年度に取り組み始めた本調査研究では、「身近な自然」に焦点を当てました。幼児は身の回りの環境から影響を受け、心を動かされて主体性を発揮していきますが、中でも、自然という環境は人智を超えた存在であり、幼児の心身の健やかな成長になくてはならないものです。幼児が身近な自然に触れる中で発見や驚きを感じることは、その思いを身近な人に伝えたり共感したりする体験にもつながり、身近な自然に触れることは園の中では友達と、家庭では親子で共に過ごすひとときを、より楽しくより豊かにしてくれると考えます。

今回の調査研究は、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度一年間は活動を休止したため、令和元年度・令和3年度の2年間の研究となりました。特に今年度は、コロナ禍だからこそ日々の生活に少しでも心豊かなひとときを、という願いも込めて活動を展開してまいりました。本報告書を各園内外でご活用いただき、幼児の健全育成や家庭の教育力向上にお役立ていただければ幸いです。

結びに、本事業のご指導をいただきました 國學院大學 教授 鈴木みゆき先生をはじめ、アンケート調査や「全国キャンペーン・研修会」の開催にお力添えいただきました先生方や保護者の皆様、報告書作成にあたりご協力いただきましたご関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

# I

## 事業の概要

身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究  
—身近な自然に触れて遊んで！親子で一緒に楽しもう！—

### 1 事業の趣旨

子どもは身近な自然に触れたり、遊んだりすることを通して豊かな感性や表現力が育まれる。園において身近な自然を生かして遊びを豊かにすることをきっかけに、近隣の公園や家庭においても、親子の関わりを楽しみながら自然に触れて遊ぶことを推進することで、子どもの豊かな感性や好奇心を育み、思考力や表現力の基礎が培われるのではないかとされる。

急激な技術革新や新型コロナウイルス感染症の拡大による生活環境の変化に伴い、戸外で自然に触れて好奇心のおもむくままに自由に関わったり、じっくりと遊んだりする機会が少なくなり、スマートフォンやゲーム機器を使った仮想空間での間接体験を通じた遊びが増えている。自分の手で園庭の草花を摘んだり、砂や土に触れて遊んだりすることに抵抗感を抱く子どもも見受けられる。自然との関わりを通して、豊かな感性と表現力の源ともなる心が揺り動かされ、人の思い通りにならない体験をすること、多様性を学ぶことが、今まで以上に重要となってきた。

幼児期の成長には、身の回りにある身近な自然に触れる機会を多くもち、それらを取り入れて遊ぶ楽しさを十分に味わうことが必要であり、園だけでなく家庭と連携して一貫した幼児の成長につながる豊かな体験ができるようにすることが大切である。

そこで、全国国公立幼稚園・こども園長会 特別事業では、自然に触れて遊ぶことを通して、豊かな感性や好奇心を育み、思考力や表現力の基礎を培うことを目指して、調査研究を進めていくこととした。

### 2 事業の経過

「身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査」を行い、親子の関わりを楽しみながら自然に触れて遊ぶことを推進し、豊かな感性や好奇心を育み、思考力や表現力の基礎を培うことをねらいとし、2年間の調査研究を行う。

#### 1年次

(令和元年度)

- 親子や教諭の自然との触れ合い、自然体験に関する実態調査を実施し、「自然との触れ合い、自然体験」に関する現状把握をする。
- 「親子の関わりを大切にしながら、自然に触れて遊ぶ楽しさと大切さを体験する」全国キャンペーン・研修会とともに幼児教育の重要性についての講演会を実施し、園、家庭、地域が連携して幼児の自然との関わりが豊かになるよう意識を高める。
- 1年次の事業についてリーフレットを作成し、園・家庭・地域において「自然との触れ合い、自然体験」を豊かにするための提言をまとめ、全国国公立幼稚園・こども園並びに関係諸機関へ配布する。

#### 2年次

(令和3年度)

- 1年次の成果と課題をもとに、子どもにとって望ましい親子の関わりについて明らかにし、身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための在り方を探る。
- 身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むよう、行動化を促す全国キャンペーン・研修会を実施する。
- 2年間の調査研究を報告書としてまとめ、全国国公立幼稚園・こども園並びに関係諸機関に配布する。

# II

## 調査結果及び1年次 全国キャンペーン・研修会の成果

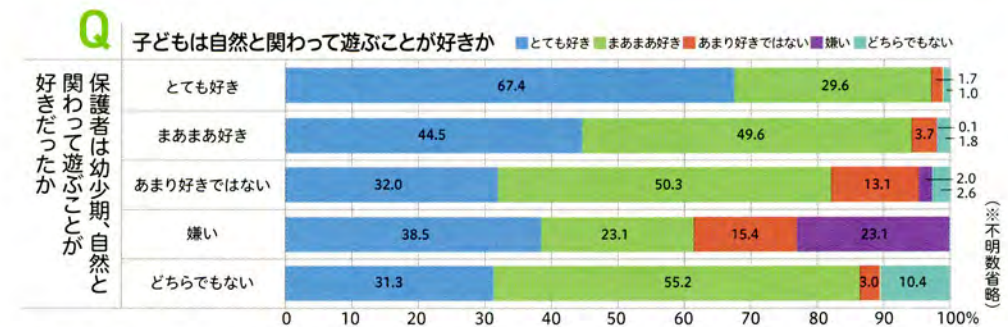
### 1 「身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査」から分かったこと

#### (1) アンケート調査の概要

- 調査対象園：全国の幼稚園・こども園から選定
- 回答者数：保護者2,037名 教諭666名
- 調査実施期間：令和元年9月

#### (2) 調査結果からの分析の概要

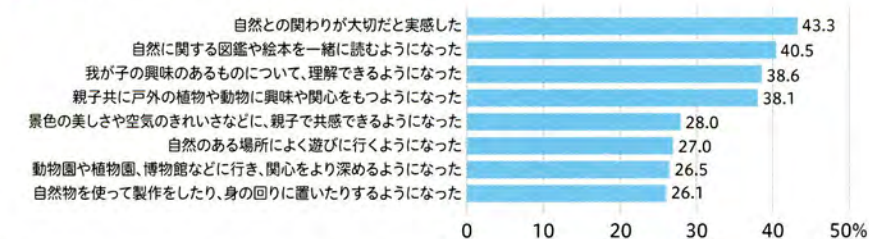
##### 自然との関わりに関する保護者の幼少期の実態と子どもの実態(クロス集計)



自然に関わることに関しての「好き」「嫌い」は、親子で同じような回答をする傾向があることが読み取れた。しかし、自然に関わることに「嫌い」「あまり好きではない」と回答した保護者の子どもでも、自然に関わることに「とても好き」「まあまあ好き」という回答を合わせると6割以上あることが読み取れる。このことから、園生活の中で子どもが身近な自然に触れて遊ぶことを充実させたり、園からの積極的な発信をしたりすることで、子どもの自然体験を、より豊かにすることができるのではないかと考える。

##### 園の取り組みや発信による自然との関わりに関する保護者と子どもの変容

#### Q 園からの発信がきっかけで、親子で自然と関わったり意識が変わったこと(3つ選択)



園からの発信がきっかけで、自然に関わる大切さを実感したり、実際に自然に関する図鑑や絵本と一緒に読むようになったりするなど、行動に結び付いていることが分かる。幼少期に自然体験の少なかった保護者や、あまり関心のなかった保護者にとっても、園からの働き掛けが「意識化」「行動化」を促すことにつながっている。

### 2 1年次全国キャンペーン・研修会の成果と課題

全国キャンペーン・研修会では、親子の関わりを楽しみながら、身近な自然に触れたり、自然物を使って遊んだりなどの自然体験活動に取り組んだ。その結果、次のような成果と課題があった。

**成果** 保護者からは「親子で自然物を見付けたり、触れ合って遊んだりすることができてよかった。」「子どもたちが生き生きとした表情で、親もうれしかった。」「自分の育つ地域に愛着を深めることができ、親子のつながりが深まる有意義な時間だった」という意見が出された。このことから、園においても、意図的に計画した活動を企画することが、保護者の意識も変容させ、より、自然に親しむことのきっかけになったと捉えられる。

**課題** 身近な自然に触れて遊ぶ楽しさや、親子の関わり的重要性を、園から繰り返し発信していく必要がある。また、身近な自然に対する子どもの興味・関心を高めるために、地域の人材や特性を生かした環境を意図的・計画的に取り入れていくことが重要である。

# Ⅲ

## 国公幼からの提言

1年次の調査及び全国キャンペーン・研修会を基に、幼稚園・こども園や家庭、地域において「子どもの豊かな感性を育む」ために、以下の提言をする。



### 提言1 遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しよう

幼児は、身近な自然環境に好奇心や探求心をもって主体的に関わり、全身で自然を感じる体験により、心が癒されると同時に、その大きさ、美しさ、不思議さに心を動かします。そして、幼児が身近な自然を自分の遊びや生活に取り入れていくことを通して、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われていきます。そのために、幼稚園・こども園では、身近な自然と関わる機会を計画的・積極的に作ったり、自然環境の構成や援助を工夫したりして、幼児が遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるようにしていくことが大切です。

#### 提言1にチャレンジするためには

- 幼児が自分の興味・関心に応じて身近な自然と関わる遊びを友達と繰り返し楽しめる環境づくりをしましょう。
- 幼児が主体的に自然環境に触れて豊かな経験ができるように、身近な自然と関わる遊びや活動を工夫しましょう。
- 園の自然環境を生かし、身近な自然環境と関わる遊びや活動、保護者参加の活動を計画的に位置付けましょう。
- 保育者は、自身の感性を豊かに保ち、遊びや生活の中での幼児の何気ない自然への関わりにも共鳴していきけるように、身近な自然と関わる遊びの指導や環境づくりについて研修し、実践に生かせるようにしましょう。

### 提言2 幼児期に、身近な自然に関わり遊ぶ大切さを保護者と共有し、

#### 親子で自然との触れ合いを楽しめるようにしましょう

利便性を求めた生活環境や幼児を取り巻く環境の変化等により、必ずしも幼児の周りに豊かな自然環境があるとは限りません。また、豊かな自然に囲まれていても、身近な大人が自然とその変化のすばらしさに感動することや幼児が示す自然への興味・関心に共鳴できなければ、幼児の心の安定や思考力・好奇心の芽生えにつながりにくくなります。幼児が豊かな感情や好奇心を育み、思考力や表現力を形成していくために、保育者は、保護者に幼児期において、自然に触れて生活することの意味の大きさを伝えたり、実践を通して保護者と身近な自然に関わり遊ぶ大切さを共有したりし、園生活だけでなく、日常生活の中でも親子で自然との触れ合いを楽しめるようにすることが大切です。

#### 提言2にチャレンジするためには

- 身近な自然に触れる様々な楽しい遊びを保護者に伝え、親子で一緒に遊んだり、驚きをもって見つめたりするなど、様々な身近な自然と関わり、親子ともに心を動かす機会を作りましょう。
- それぞれの幼児の園の行き帰りや近隣の公園等の自然について、親子で興味・関心をもてるような発信をし、親子で身近な自然環境を見たり、触れて遊んだりしながら、感じたことや考えたことを話題にして楽しめるようにしましょう。

### 提言3 地域の環境を活用し、親子で身近な自然との触れ合いを積極的に楽しめるように発信しよう

幼児にとって、園や家庭、地域の身近な自然との出会いや感動体験は、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情などを育てるばかりではなく、科学的な見方や考え方の芽生えを培う上での基礎となります。そのためには、親子で身近な地域の自然環境をよく知り、虫や植物の特徴や生態に親しみ、興味・関心をもって積極的に関わるようにしていくことが大切です。

#### 提言3にチャレンジするためには

- 通園路や地域の公園等地域の自然環境の特性を生かした行事や活動を通して、親子で、身近な自然に目を向け、触れることを楽しめるようにしましょう。
- 園は、自然に関する専門知識のある地域の人と触れ合う機会を設け、親子で科学的な見方や考え方、植物や昆虫の生態等に興味・関心をもちながら、身近な自然を見たり、触れて遊んだりすることを楽しめるようにしましょう。

# Ⅳ

## 提言の実践

1年次に行った調査をもとに発信した3つの提言は、実践・行動化につなげていくことが重要である。以下にまとめた各提言の実践事例を参考に、全国のそれぞれの地域や園・家庭の実態に応じた取り組みを進めていただくことを願っている。

### 1 実践について

#### 実践1 提言1 遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるような環境を工夫しよう

##### 「もっと、いろいろな所に行きたいかもしれないから…」 5歳児 5月

様々な樹木や畑、ピオトープ等、子どもたちが身近に触れることのできる自然環境がある園庭であるが、数年前の大規模改修後、野草を含めた植物が育ちにくくなり、生き物もあまりやって来なくなっていた。そこで、子どもたちが多様な自然と関わるように園庭環境を見直し、虫を呼び込める野草や花を増やしたり、子どもたちが親しみやすい名前（「むしむしらんど」「わくわくさんぼみち」等）を付けたりした。

すると、園庭にやって来るチョウやバッタ等の虫が増えるとともに、場に興味をもって進んで身近な自然に関わろうとする子どもたちの姿が多くなった。

ある日、子どもたちが園庭で捕まえたモンシロチョウを保育室で飼い始めた。餌に何を与えるか教師と一緒に考え、砂糖水を染み込ませたティシュペーパーをペットボトルの蓋を容器に入れて入れた。子どもたちはチョウが砂糖水を飲んでいる様子に気付くが、チョウはすぐに飲むのを止めてしまうため、教師がデジタルカメラで撮影してその様子を子どもたちに見せた。チョウが飲んでいる様子をじっくりと見ることができた。数日後、「もっといろいろな所に行きたいかもしれないから逃がそう」という声が子どもたちから出て放すことになった。虫がごから出て行くチョウの姿に「元気でね」と声を掛けたり、姿が見えなくなるまで手を振り続けたりする様子が見られた。



#### 指導のポイント

- 1 どのように自然と関わる経験を増やしたいか具体的に考える。
- 2 どの野草や花がどの虫を呼び込むのかを知る等、教師の自然に関する知識を高める。
- 3 幼児の発見や疑問等を受け止め、友達と共有できるようにする。

#### 考察

- ▶ 虫を呼び込む野草や花が増えてたくさんの虫が園庭に来るようになると虫に対する子どもたちの関心が高まる。
- ▶ 子どもたちが進んで関わりたくなるような環境があることで、身近な自然との関わりが広がり、様々なことを感じたり、感じたことや考えたことを表現したりする姿につながる。また、命の大切さを学ぶことで、自然の不思議さを感じる機会となる。

#### 実践2 提言2 親子で自然と関わる体験ができるような活動や環境を工夫しよう

##### 「枝豆に触るとちょっとくすぐったい」 親子で枝豆の栽培・味噌作り 4歳児 5月～12月

栽培を通して身近な自然への興味や関心をもってほしい、親子で共通の体験を楽しんでほしいという願いから、親子で枝豆の栽培をしている。

5月に親子で一緒に種まきをした後、発芽や葉の生長、開花、実等の様子に触れ、「枝豆に触るとちょっとくすぐったい」などと日々気付いたことや感じたことを友達や教師、保護者に伝える姿が見られた。7月には収穫した枝豆を園や家庭で食べ、その後、枝豆が成熟してきた大豆を用いて親子で味噌作りを行った。

枝豆の生長や幼児が枝豆との触れ合いを楽しんでいる様子を降園時の話や学級だより・掲示・動画・HP等で伝えることで、降園後に親子で枝豆を見ながら「かわいい花が咲いたね」「小さい枝豆できているね」とうれしそうに話す様子が見られた。

また、学級懇談会等の中で保護者から「枝豆ちゃんメモ(生長の日記)」を親子で書きながら、枝豆の話をしています。「子どもたちは枝豆に触れて様々なことを感じ、考えていることを実感しました」「枝豆の様子を見たり、収穫して食べたりすることができて、私自身もとても楽しかったです」「枝豆が大豆になることを実際に見たり味噌を手作りしたりするのは初めてで、貴重な体験でした」と、家庭での様子の話や保護者の感想が聞かれた。

担任は寄せられた感想や日頃の幼児の具体的な姿をもとに、幼児期に親子で自然との触れ合いを楽しむ重要性について、改めて学級全体の保護者に話をした。



#### 指導のポイント

- 1 園内の環境や栽培活動を活用し、親子で身近な自然と関わる機会をつくる。
- 2 枝豆との触れ合いの中で経験していることや感じていることを様々な発信の手段を用いて具体的に保護者に伝える。
- 3 各保護者が実感した親子での栽培の意義や自然と関わる楽しさを、全体で共有する。

#### 考察

- ▶ 栽培物に関わる中での幼児の気付きや生長に対する喜びに保護者が共感することにより、身近な自然への興味や関心がさらに高まることにつながる。
- ▶ 親子で栽培物の生長に触れたり園や家庭で話題にしたりする機会を継続的につくることにも、その中で感じたことや考えたことを伝え合い、共有することが大切である。

**実践3 提言2・3** 地域の人材や近隣の公園などの環境を活用し、親子での活動を楽しもう！

**「親子で身近な自然を観察しよう」 4・5歳児 8月**

①近隣の公園で、毎年「親子自然教室」を兼ねた遠足を実施している。②講師には自然観察の専門の方を招聘して、毎年、両親で参加する家庭が多い。

公園内を講師の先生の誘導で歩き、「アリはメスしか外で働かないから、みんなが公園で見つけるのは全部メス」「銀杏にはオス、メスがあって、葉っぱにズボンのように切れ目が入っているのはオスで、スカートのように切れ目が入っていないのはメス」などの説明を聞き、親子で「そうなのか」と感心する姿が見られた。

また、「写真を配り、同じ植物を親子で探す」などのオリエンテーリングも行った。その後は、公園での遊びの際も様々なものに関心をもって動く姿が見られた。

保護者からの感想では「身近な公園で、これ以上発見があるのかと思ったが、初めて聞く話ばかりで勉強になった。」「普段は仕事で忙しくじっくり関わってあげられないので、久しぶりに自然の中で触れ合うことが出来、楽しかった。」「私自身虫が苦手なので、あまり自然の中には行かなかったが、子どもが目を輝かせているのを見て反省した。」という感想が寄せられた。

③園が企画したことをきっかけに、子どもたちの関心も強くなり、さらに保護者の意識も変わることを実感した。



**指導のポイント**

- ①身近な公園など、今後の子どもたちの遊びや生活に活かせる場であることも重要である。
- ②地域の人材、専門知識のある方を招聘していくことが効果的である。
- ③この企画を通して、家族での遊びが豊かになるきっかけを作ることが大事である。

**考察**

- ▶親子で共通の体験をすること、専門的な話を聞いたことで、より身近な自然に興味・関心が深まった。
- ▶子どもたちの感動や、疑問などを親子で会話することで、より一層興味や関心を深め、探究することに繋がっている。

**2 提言の実践から明らかになったこと**

幼稚園・こども園、家庭、地域に向けた3つの提言をもとに行った実践を通して、明らかになったことを以下にまとめる。

**実践1 幼児は身近な自然に主体的に関わり、興味や関心をもちながら様々な経験をしている**

幼児は、身近な自然に関わる体験を通して、不思議さを感じ、感動するなどを繰り返し、遊びに取り入れながら、様々な事象に好奇心や探求心をもつようになってきていることや、デジタルカメラやタブレットなどの情報機器の活用により、幼児の探求心がより高められていることが分かる。幼児が自然と関わりながら気付いたり、発見したりと、環境に関わる態度を育てるために、教師は、自然と触れ合う経験を十分に得られるよう、幼児にどんな経験を増やしたいかを考え、願いをもち、意図的、計画的に環境を構成することが大切である。

**実践2 親子での身近な自然体験を通して、幼児の豊かな感情や好奇心が生まれ、思考力や表現力の基礎が培われている**

親子での身近な自然に触れた共通の体験をすることにより、幼児、保護者、教師が心動かされる場面に会い、感じたことや考えたことを伝え合う喜びを感じ、それらの感動体験を園と家庭で共有することができていることが読み取れる。栽培活動のほか、味噌作りといった、豊かな体験が更に得られる機会を設けたことにより、親子の自然との関わりや、幼児の好奇心、探求心が、より深められている。これらの活動を通して日々の生活の中でも、親子が身近な自然に関心を持ち、思いや考えを伝え合うことが楽しいと感じられるようにすることが重要である。

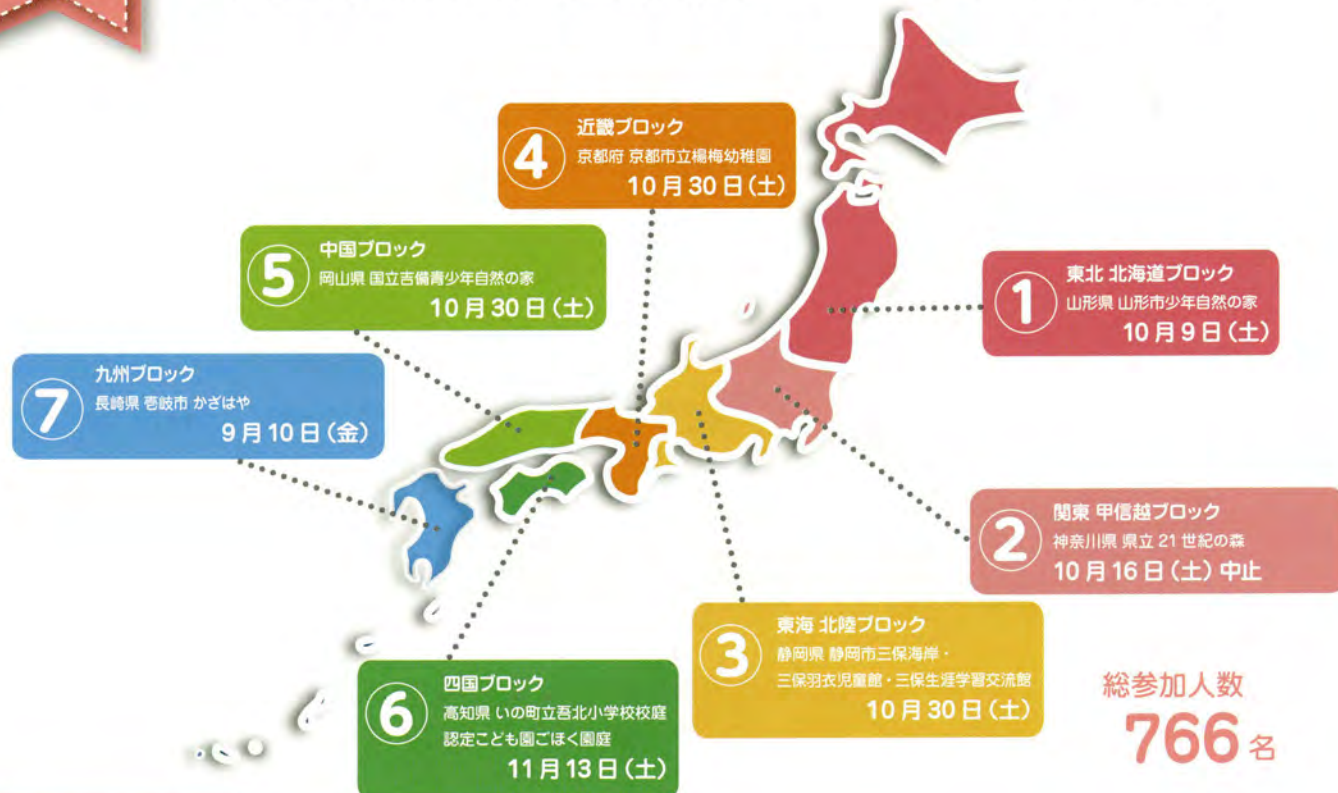
**実践3 園内外の人々との協働により、親子の豊かな体験を創り出し、自分たちの地域に親しみを感じている**

地域の公園に専門の講師を招聘した親子自然教室では、直接的な体験を通して、身近な事象に興味や関心が高まる様子が見取みからうかがえる。親子が夢中になって遊ぶ姿は、地域、人材等を活用した環境によって引き出されたものである。情報化が急激に進んだ社会の中で、間接情報に囲まれた生活を送る幼児は、直接的、具体的な体験が不足している。地域の資源を活用し、幼児の心を揺り動かすような豊かな体験が得られる機会を積極的に設け、地域に親しみの気持ちをもてるようにしていくことが必要になっている。

**V**

**2年次の全国キャンペーン・研修会**

この全国キャンペーン・研修会は、親子の関わりを楽しみながら、幼児が自然との関わりを通して豊かな感性を育むための環境を整え、実践化を図っていくことを目的とした取り組みである。



**1 各ブロックの報告**

**山形県国公立幼稚園・こども園会**

**① 東北 北海道ブロック**

参加者 [計115名]  
 ●園児 45名 ●保護者 63名 ●未就園児 1名  
 ●園長 1名 ●教諭 5名

実施日: 令和3年10月9日(土) 会場: 山形市 山形市少年自然の家

**親子で秋の自然を楽しもう**

受付	開会式	グリーンアドベンチャー	エコバッグづくり	閉会式
9:00	9:30	9:40	11:00	12:00
				12:10

講師 山形市少年自然の家 副所長 山口 雅和

**グリーンアドベンチャー**



植物クイズを解きながら森の中を散策。途中、エコバッグづくりで使うお気に入りの葉っぱを拾いながら歩いた。



「これはどういふ名前の木かな？」と札をめくって名前を確かめながら散策した。



拾った葉っぱをバッグにくっつけて、スプレーをシューッと吹きかけると、きれいな模様ができた。

**参加者の声**

- 家族と一緒に遊んだり歩いたりすることはあっても、自然の中で体を動かすのは久しぶりで、親子ともに大変楽しく参加させていただいた。
- 普段漫然と眺めている山にも様々な植物が共生していることが分かり、子どもはもちろん、親もとてもよい勉強になった。
- エコバッグ作りでは葉の模様が付く様子を見て、子どもがとても喜んでいました。

## ② 関東 甲信越ブロック

申込者 [計181名]

- 園児 77名 ● 保護者 77名 ● 園長 7名 ● 教諭 15名
- 行政 5名

実施計画日: 令和3年10月16日(土) 会場: 南足柄市 神奈川県立21世紀の森

# 身近な自然にふれて遊んで! 親子で楽しもう! 2年次

受付	開会式/あいさつ 講話/グループ分け/移動	親子で遊ぶ・自然の中で親子でふれあい遊びを楽しむ ・21世紀の森の中を散策し、自然を感じる	体験談発表 アンケート記入	閉会式
8:30	9:00	9:50	11:30	12:00 12:30

講師 (株)アグサ野外教育部 宮里 麻美

### 21世紀の森入口



### 21世紀の森 森林館



### スタンプラリー



新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## ③ 東海 北陸ブロック

参加者 [計59名]

- 園児 19名 ● 保護者 20名 ● 園長 12名 ● 行政 6名
- その他 2名

実施日: 令和3年10月30日(土) 会場: 静岡市 三保海岸・三保羽衣児童館・三保生涯学習交流館

# 「身近な自然に触れて親子で一緒に遊ぼう! 楽しもう!」 ～海岸でつけた自然物を使って遊ぼう～

受付	開会式	海岸や松林で自然に触れよう!自然物を探そう!	移動	親子で自然物を使った製作	閉会式
9:15	9:30 9:40		10:15	11:15	11:30

講師 静岡市 環境学習指導員 守屋 司子

### 三保の松原でみつけたよ!



● 海岸や松林で自然物探し  
海の匂いがある中で駿河湾の話や松ぼっくりの不思議について話を聞いた後は流木や貝殻など海の自然物をたくさん見つけ、砂絵遊びや石積など海岸での遊びも楽しんだ。

### 何をつくろうかな?



● 自然物がいっぱい  
海岸で拾い集めてきた物の他にも木の葉や種など、秋の自然物を用意したことでイメージが膨らみ遊ぶ楽しさが増えた。

### お家の人と一緒に



● 自然物を使っての製作  
親子で協力しながらリースやツリー、壁掛け、オブジェなど、素敵な作品がたくさんできました。

### 参加者の声

- 子どもと相談しながらの製作遊びはとても楽しく、帰ってからでも続きをしようと言っていた。「また、行こうね。」と約束をした。
- 子どもが生き生きと自然物に触れ楽しそうだった。子どもの集中力やアイデアに驚かされた。
- 子どもとゆっくり向き合う時間が日々少ない中で、充実した時間を過ごすことが出来た。

## ④ 近畿ブロック

参加者 [計122名]

- 園児 54名 ● 保護者 50名 ● 未就園児 3名 ● 園長 5名
- 教職員 8名 ● 行政 2名

実施日 令和3年10月30日(土) 会場: 京都市立楊梅幼稚園

# ふしぎ!たのしい!おもしろい!～親子で自然に親しもう～

受付	<5歳児親子> 開会・趣旨説明・ミニ講演会 しぜんぶつであそぼう	入替 消毒タイム 受付	<4歳児親子> 趣旨説明 しぜんぶつであそぼう	入替 消毒タイム 受付	<3歳児親子> 趣旨説明 しぜんぶつであそぼう
8:50	9:05	10:00	10:15	11:00	11:15 12:00

講師 野遊び研究者 山崎 春人

### ミニ講演会「植物の戦略・人間の戦略」



植物の性質や自然界の不思議、自然と関わる中でコミュニケーション力が育つことなどを講演動画の視聴を通して学んだ。

### しぜんぶつであそぼう～葉っぱでお絵かき・自然物でケーキ作りなど～



小枝で作った鉛筆でタラヨウの葉に絵が描けること等に驚き、親子で自然の不思議さを感じたり楽しんだりした。



様々な種類の木の実などを切り株の上にのせるケーキ作りを通して、季節を感じながら身近な自然物で遊ぶことを楽しんだ。

### 参加者の声

- デジタル社会の現代、自然と触れ合い自然の摂理を学ぶ機会が少なくなっている。自然の話を聞いたり子どもと一緒に自然物を使って遊んだりして充実した時間を過ごすことができた。心身ともにリフレッシュできた。
- 親子で会話しながら和やかな雰囲気の中で取り組む時間が貴重だと感じた。これからも家庭と園とが連携しながら豊かな体験を積み重ねていきたい。

## ⑤ 中国ブロック

参加者 [計114名]

- 園児 48名 ● 保護者 46名 ● 教員 3名 ● 園長 17名

実施日: 令和3年10月30日(土) 会場: 加賀郡吉備中央町 国立吉備青少年自然の家

# みてきてさわって一緒に遊ぼう! 親子で自然を感じよう!!

受付	開会式	親子で遊ぼう	休憩・移動	閉会式
13:00	13:10 13:20		15:00	15:20 15:30

講師 岡山県シェアリングネイチャー協会 コーディネーター / 岡山県小田郡矢掛町立矢掛小学校 校長 勝間 光洋

### フィールドビンゴゲーム



自然の中で「あり」「鳥の声」「ふわふわしたもの」などを視覚、聴覚、触覚等を使って宝探しをした。親子で一緒に発見や喜びを共有しながら楽しんだ。

### 万華鏡づくり



自然の中で収集した葉・木の実・花びらなどを使って、万華鏡を作った。親子で交代しながら万華鏡をのぞいて、「きれいだね」と感動を伝え合っていた。

### 参加者の声

- 住んでいる近くに自然が少ないので、よい経験ができた。これからも積極的に自然に関わっていきたい。
- 自然と触れ合うことは大切なことだと思うが、どう接していいのかわからなかったので、とても参考になった。
- 外遊びが減っている中でとても良い時間を過ごすことができた。秋になり、葉の色が変わっていく様子などを子どもと観察しながら、過ごしてみたい。

## ⑥ 四国ブロック

参加者 [計102名]  
 ●園児 34名 ●保護者 40名 ●園長 8名 ●教諭 16名  
 ●教育委員会・行政 4名

実施日:令和3年11月13日(土) 会場:吾川郡 いの町立吾北小学校校庭・認定こども園ごほく園庭

### 見てみよう、触れてみよう!!わくわく親子体験 ~身近な自然がいっぱい~

受付	開会式	体験1	休憩	体験2	休憩	体験3	閉会式	
9:00	9:30	10:20	10:40	10:50	11:10	11:20	11:40	11:50

講師 木育インストラクター 平子 真治  
 ネイチャーゲームリーダー 兼松 憲一

参加者が3つのグループに分かれて、それぞれのブースで体験した

#### 木のペンダント作り



好きな形の木片を選び、3種類のやすりで削って、世界でひとつのペンダントを作った。

#### 森の美術館



フレームの中に写る自然から、イメージした言葉を書き出して森の美術館ができた。

#### 自由に遊ぼう



身近な自然物を使っての遊び体験コーナー。的あてや、自然物を使った製作、絵葉書作りをした。

#### 参加者の声

- 子どもと触れ合い自然を感じる体験ができて楽しかった。また、家庭では経験させてあげられない内容に、子ども達は大喜びだった。
- 体験の中で子どもの頃を思い出し、既製の遊具より自然の中で決まりのない遊び方を自分で考えながら遊ぶことは大切だと思った。
- 親子の触れ合いの中で、子どもの感性が光る事業だった。そして参加した者は五感を刺激され、元気をもらった気がする。

## ⑦ 九州ブロック

参加者 [計73名]  
 ●園児 19名 ●保護者 24名 ●園長 1名 ●教諭 5名  
 ●保育所関係 20名 ●行政 1名 ●その他 3名

実施日:令和3年9月10日(金) 会場:長崎県壱岐市 かざはや

### 身近な自然に触れて遊んで、親子でイキイキたのしもう!

受付	開会式	キラキラビーチ★IKI (壱岐の海の砂や貝殻でビーチをつくろう!)	閉会式
10:00	10:15	10:20	11:50

講師 壱岐市立鯨伏幼稚園 重本 かおり

#### 砂でビーチづくり



フレームに、砂を使ってビーチを作ったり、接着剤に色を加えて、海を作ったりして楽しんだ。

#### 貝殻を選ぼう!



たくさんの種類の貝殻を自由に選び、ビーチの上に、カメラやサンダルを描いた。

#### キラキラビーチ完成!



いろいろなアイデアを子ども主体で考え、親子でビーチ製作を楽しむことができた。

#### 参加者の声

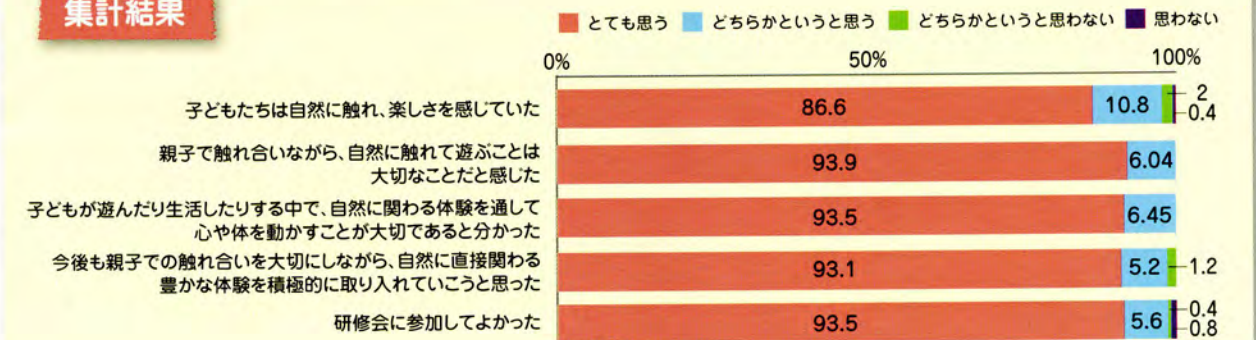
- 貝殻を選ぶところから、子どもがすでに『どこに置こうか』とイメージできていて、意外な一面を発見できた。
- 子ども達が考えたり選んだり、楽しんで活動されていて主体的にできていたので、よかった。
- 壱岐の海で採取した貝殻を利用した製作活動を、親子で一緒に楽しむ姿は、まさにブロック研修会のテーマに沿った保育活動であった。

## 2 全国キャンペーン・研修会の成果



### ① 参加者アンケートの集計結果

#### 集計結果



全国キャンペーン・研修会の参加者アンケートを集計した結果、参加者が、幼児が自然に触れて遊ぶ楽しさを感じ、親子で触れ合いながら自然に触れて遊ぶことが大切であると感じていることが分かった。また、保護者自身身近に豊かな自然環境があることを知り、その価値やそれを生かして遊ぶ楽しさを知るきっかけとなったことが分かった。研修会に親子で参加したことで、自然に関わる体験を通して、親子で心や体を動かすことが大切であることが分かり、今後取り入れていきたいという声も多数寄せられた。

### ② 集計結果から読み取れること

全国キャンペーン・研修会の実施において、身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための実践・行動化が促され、次のような成果があった。

#### 身近な自然に触れ遊ぶ中で改めて自然の良さを感じることができた。

- 地域の自然環境を知り、触れ合い、それを使って遊んだり、遊びに生かしたりすることで、より自然を通しての体験が豊かになることを、生き生きと活動する子どもの表情から感じることができた。
- 身近にある草花や木の実等が遊びに生かせ、親子で触れ合いながら遊べるのが分かり、親子で自然に触れて遊ぶきっかけとなった。

#### 保育者が、遊びや生活の中で、身近な自然と関わる経験ができるような環境を工夫するきっかけになった。

- 様々な自然に触れる機会や遊びに取り入れていくことができるような環境を工夫していくことが必要だということを保育者が再認識した。
- キャンペーン・研修会に参加し活動する参加者の表情から、親子で自然に触れ合うことは、貴重で豊かな体験であるということを保護者へ発信していくことの必要性を感じた。

#### 地域の環境を知り、それを遊びに生かそうとするきっかけとなった。

- 身近にこのような貴重な自然環境があることが分かり、それを取り入れた遊びを知ることで、改めて地域の自然の良さに気付くことができた。

## 身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための 幼稚園・こども園の役割

特別事業委員会 委員長 渡部 佳代子

子どもは、身近な自然に触れたり遊んだりすることを通して豊かな感性や表現力が育まれる。幼稚園教育要領等においても、領域「環境」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「自然との関わり・生命尊重」において、幼児期の自然との関わり的重要性についてあげられている。

本事業で行った調査研究から、保護者が自然と関わるのがあまり好きではないまたは嫌いであっても、子どもは自然と関わるのが好きである割合が高いという結果が得られた。また、全国7ブロックで行われた全国キャンペーン・研修会の参加者からは、身近な自然物のよさや親子で体験を共有することの大切さに気付いた、今後も親子で積極的に自然に関わって遊んでいきたいという感想が多く出されていた。

これらのことから、子どもが自然との関わりを楽しみ、感性を豊かにしていくためには園での環境や経験が大きく影響すると考える。

そこで、身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための幼稚園・こども園の役割を以下のようにまとめた。

### ① 地域の特性を生かした自然体験の機会を増やす

園を取り巻く自然環境は、地域により大きな違いがある。しかし、豊かな自然環境に恵まれていなければ自然との関わりを楽しむことができないわけではない。自園の地域の自然環境の特性を把握し、その特性に応じた活動の工夫を図ることで子どもの自然体験を豊かにしていくことが重要である。

また、地域の自然環境をよく知る講師を招聘しての活動を実施するなど、地域の人材を把握し、活用することで、子どもの自然体験をより豊かにしたり、教諭の自然に関する知識を高めたりすることにもつながっていく。

### ② 自然との関わりに関して、保護者への積極的な発信を行う

前述のアンケート結果のように、園での経験の積み重ねが子どもたちの自然への関心を高め、自然に関わることが好きになることにつながっている。この姿を、親子で一緒に楽しむことにつなげていくためには、園の取り組みや子どもたちの様子を保護者にわかりやすく発信していくことが必要である。

また、親子で一緒に活動をする機会を増やすことで、子どもたちが自然との関わりを楽しんでいる様子や自然を利用した遊び方を知ることができ、保護者の自然への意識を変化させ、家庭でも親子で自然に関わる機会を増やすことにつながっていくと考える。

自然は、季節や地域によって様々な特性があり、関わる人のとらえ方によっても違った表情を見せる。それだけに、身近な自然を生かした様々な活動を工夫することが子どもたちや保護者の身近な自然に対する興味・関心を高めることにつながっていく。この調査研究の内容を、今後の各園での実践に生かし、子どもたちの豊かな感性を育む取り組みを継続していただきたい。

## 感性と探究心を育てる自然体験

### ～親子と自然をつなぐ園の役割～

國學院大學 子ども支援学科 教授 鈴木 みゆき

#### ● 自然体験がもたらすもの

日本は四方を海に囲まれ、豊かな森と川、四季の変化に恵まれた国です。その分自然災害も多く、山林や里山の保護、育成等に多くの人の手を必要としますし、防災・減災に向けて様々な国策（国土強靱化計画）が進められてもいます。自然は太古の昔から、生活の営みを作り、文化を育み、命の教育をしてきました。感性の脳が育つといわれる幼児期だからこそ、自然と触れ合い、直接的な体験をする中で、心と知恵と探究への姿勢を育てていきたいと思えます。

とはいえ、今は海辺で育っていても海で泳いだり磯で遊んだりする経験が少ない幼児が多いようです。国立若狭青少年自然の家では、近隣の市町の幼稚園・保育所・こども園の年長児を対象に、海で遊ぶ体験活動を実践してきました。上記は海に入る前と後に「うみ」というテーマで絵を描いてもらったものです（図1・図2）。

感性を揺さぶり、「自然の中の私」を描くようになっていきます。

安全で安心な環境のもとで子ども達の主体的な遊びを大切にすると、園や家庭とは違う子どもの姿に保育者や保護者が気づく場面も見られました。「おとなしい子」のはずが積極的に友達を誘い、カニやタコを追いかけ、手にウニを乗せて見つめる姿に、保育者も保護者も驚くのです。自然という大きな環境が、子ども自身が本来もっている好奇心、探究心、行動力を開放してくれるのかもしれない。

自然体験は子ども達の非日常から日常をつないでくれます。園に戻れば子ども達は海での話をし、図鑑を観たり身体で表現したり、遊びの中でイメージを膨らませます。園庭での生き物やお弁当の素材にまで波及して、子どもの学びに向かう姿が、体験を通した幼児期の生活を骨太にしていくのです。

こうした体験は大人になった時に「自己肯定感」や「へこたれない力」として生きてきます。国立青少年教育振興機構の調査では、家庭の教育的・経済的条件の高群、低群ともに、「家族でスポーツしたり自然の中で遊んだりしたこと」や「公園や広場で友だちと外遊びをしたこと」の「多群」のほうが、他の群に比べ、自己肯定感の「高群」の割合が高いことがわかりました。また、幼少期の自然体験と大学生の社会性との関連を調査した山本は、自然体験と「社会性（共感や社会的スキル）」に関連が見られたことを明らかにしています。つまり、自然体験等で子ども自身が直接的・具体的な体験で得た喜びや感動、時には悔しい思いや不安等は、将来その子どもを支える力になりうるということなのです。

#### ● 自然体験は苦手？世代間の体験差をふまえた子育ての支援

自然体験が子ども達に有効だと叫んでも、すでに保護者や若い保育者の世代では「自然は苦手」、「自然体験？ほとんどしたことない」と答える人が増えています。小学生とその保護者の比較をした調査でも、自然体験が減ってきていることがわかります。自身が自然体験を多くしてきた保護者は、自分の子ども達に、自然体験、生活体験を多くしていることもわかっています。

ではどうしたら保護者に、子ども達の学びの芽生えとなる自然への興味関心を尊重してもらえるのでしょうか？

#### 海の体験 前後の絵

提供：国立若狭青少年自然の家



(図1)



(図2)







### 編集・執筆 特別事業委員

#### 【令和元年度】

委員長 加納 千恵子 浦安市立入船南認定こども園  
 副委員長 足立 祐子 台東区立竹町幼稚園  
 委員 山口 晃司 中央区立豊海幼稚園  
 委員 島崎 智恵 認定こども園世田谷区立多聞幼稚園  
 委員 青山 伸子 港区立港南幼稚園  
 委員 渡部 佳代子 江東区立第五砂町幼稚園  
 委員 浅沼 美穂子 浦安市立青葉幼稚園  
 委員 川嶋 佳恵 杉並区立堀ノ内子供園  
 国公幼会長 新山 裕之 港区立青南幼稚園  
 同副会長 箕輪 恵美 中央区立有馬幼稚園  
 同事務局長 佐藤 忍 国公幼事務局

#### 【令和3年度】

委員長 渡部 佳代子 江東区立第五砂町幼稚園  
 副委員長 足立 祐子 台東区立竹町幼稚園  
 委員 山口 晃司 中央区立豊海幼稚園  
 委員 浅沼 美穂子 浦安市立青葉幼稚園  
 委員 青山 伸子 港区立港南幼稚園  
 委員 川嶋 佳恵 杉並区立高井戸西子供園  
 委員 宮山 加奈子 浦安市立北部認定こども園  
 委員 穴原 江美 千代田区立千代田幼稚園  
 国公幼会長 箕輪 恵美 中央区立有馬幼稚園  
 同副会長 小岩井 聡 文京区立根津幼稚園  
 同事務局長 佐藤 忍 国公幼事務局

#### 【令和2年度】

委員 中村 千絵 千代田区立番町幼稚園

### 令和3年度 全国ブロックキャンペーン・研修会ブロック担当

東北 北海道	林 敏幸	山形大学附属幼稚園
関東 甲信越	古屋 さゆり	南足柄市立北幼稚園
東海 北陸	海老名 恭子	静岡市立東豊田こども園
近畿	山崎 直子	京都市立明德幼稚園
中国	忠田 温子	岡山市立大元幼稚園
四国	吉門 美之	いの町立幼保連携型認定こども園ごほく
九州	川井 由美子	壱岐市立霞翠幼稚園

### 身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究報告書Ⅱ 身近な自然に触れて遊んで!親子で一緒に楽しもう!

発行日 令和4年3月1日  
 編集発行 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美  
 住所 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-5-28 ナーベルお茶の水 208  
 電話 03-5684-2240  
 FAX 03-5684-2174  
 Eメール entyoukai@kokkoyo.com  
 ホームページ <https://kokkoyo.com>

